

# マフラー

## リアビューを引き立てる必須アイテム

エコカーとスポーツマフラーは、一見すると結び付かないように思うが、実際にニーズは寄せられている。ドレスアップする上で、リアビューを引き

立てるには、マフラーの存在は大きなポイントになる。また、これまでの車同様に排気系をチューニングすることで、スポーツ性や走りのフィーリング

を高めることができる。また、手軽にパワーをチューニングできることもメリットと言える。

### MAKER REPORT

## ハイブリッドカーの特性を生かす車種専用設計による低燃費と出力向上を両立する P.B.S マフラー

### マツ・ショウ (ガナドール)

マツ・ショウは、プリウス(ZVW30、NHW20)用とインサイト用に次世代型スポーツマフラー「P.B.S MUFLER」を設定している。P.B.S (パワーブーストシステム)とは、車種別の(排気量、エンジン特性、排気管の取り回し等)条件を取り入れた車種専用設計のサイレンサー構造と、排気を回転させて慣性変化を利用しパワーとトルクを向上をさせるスパイラルテールを組み合わせた同社独自のシステム。これにより低燃費と出力



低燃費と出力向上を両立するP.B.Sは、ハイブリッドカーに最適な組み合わせと言えるシステム

向上が両立でき、同社が行った新型プリウスでの実走行テストによると、パワーとトルクがアップし、燃費も4%向上したという。「プリウスに対しては低燃費は重要」(営業部統括本部長・城端義隆氏)と、エコを取り入れている。

P.B.Sをプリウス用に発売して約3カ月経つが、モニターキャンペーンで30人、体感保証キャンペーンで40人に供給している。これは「ユーザーの意見を聞きながら、一番喜んでもらえるマフラーを作りたい」とし、ユーザー本意の商品開発をしていくためにこうした施策を盛り込ん

でいる。2010年4月からマフラーの新基準が施行されることもあり、これらの情報をフィードバックしてさらなる開発への準備体制を執っているが、「今のところ不備は出ていない」と好評のようだ。

ちなみにこの体感保証キャンペーンとは、ユーザーが装着し満足出来なかった場合は商品代金を返却するシステムで、「乗って体感し、納得して買ってもらう」ことを目的に、約2年前にランクルを対象に始めた制度。徹底的な作り込みの自信から、こうした思い切った施策を打っている。ちなみに今までに返品はないと



P.B.S マフラーは、排気を回転させるスパイラルフィン(写真上)によるテール構造が特徴。ステンレス製(30プリウス、7万1400円)とチタニウム製(同19万7400円)をラインナップ

いう。なお、この制度には、商品の取り付け、取り外し工賃はユーザーの全額負担であることや、「静か過ぎる」という理由では返品を受けないなどの注意事項を定めている。

その他、マフラーカッターもラインナップしており、こちらも専用設計のフィット感や、電装系へのノイズをカットするアース機能と脱落防止機能を装備するなど、高い機能性を特徴としている。